

# 竹ヒゴで高く、美しいタワーを作る —道徳の時間で「話し合い」と「良いクラス作り」を考える—

松村 厚子

(東京大学教育学部附属中等教育学校・英語科)

## 1 はじめに

本校は、自立した学習者の育成を目指し、グループ学習をどの授業でも取り入れている。グループ学習を重視するのは、教員主導ではなく、生徒主体の授業、全ての生徒が参加できる授業を目指しているから1年生から6年生まで、どの教室も机がコの字に並んでいる。グループ学習を行う際、すでにお互いを良く知り合い、話し合いに慣れている高学年では誰でもお互いに発言が出来るようになってきているが、中学1年生の段階ではまだまだそれが難しく、いつも大声で自分の言いたい事だけ言う生徒や、何も自分からは意見を言わない生徒が存在する。そんな状況ではなかなかグループ学習が成立しない。2012年の夏、私は、そんな、話し合いが下手な生徒が多い、中1のクラスの担任をしており、その状態をなんとかしなくてはいけないと考えていた。

本校でも英語の授業で、ディスカッションやディベートを取り入れているが、それが得意だという生徒は多くはない。英語で意見交換を行う前に、まず日本語で、日常的に、話し合いが出来なければ、いきなり英語でそれが出来るわけがない。話し合いがまだ上手に出来ない生徒にはその練習が必要である。

きちんとした話し合いが苦手だということは、自立した学習者になるのが困難なだけではない。現在、グローバル化が進む中で、近隣諸国との関係は不安な部分が多い。20年後、30年後の日本を支える現在の中学生は、将来、世界市民として、世界に対して自分の意見を伝えることが出来、同時に他国の発言をしっかりと聞くことが出来るように、時には相手に対してははっきり反論する事が出来るようにならなければいけない。そのためにはまずクラスの中で、クラスの仲間としっかりと話し合いが出来るようになるのが第一歩だと考える。

ちょうどそのような事を考えていた2012年の7月に、偶然シンガポールの NIE (National Institute of Education) で、ジョン・イエオ先生の授業を何時間か見学する機会を得た。何時間か参観させていただいたイエオ先生の授業の中で、「話し合いの練習」になりそうな活動に出会った。その活動をアレンジして、意見交換の練習に適した活動を中学2年生の道徳の活動を行ってみた。その活動について報告したい。

## 2 ジョン・イエオ先生の授業

私が参観させていただいたイエオ先生の授業は、若い教員のグループに対して行われたもので、人数は30人くらい。年齢は30歳前後の、先生になって十年くらいの先生のクラスだった。異なった文化を持つ人々が自分たちを「シンガポリアン」と呼んで意識的に新しい国作りを行っているシンガポールは、教育に力を入れている。私が見学した授業を受けていた先生方は、学校の先生たちのリーダーになるための授業を受けていた。皆、熱心で、「より良い学校を作るには何が必要か」等のテーマで興味深いディスカッションが行われていた。

その中で、特に印象的だったのは、授業の冒頭でアイスブレイクのために行った「なるべく高いタワーを作る」という活動だった。材料はマシュマロとスパゲティの束。そしてセロテープ。課題は「この材料を使ってなるべく高いタワーを各グループで20分以内に作る事」。ルールは特になし。材料が配られ、スタートの合図が出されると、各グループが一斉に話し合いを始めた。話し合いを始めてすぐにスパゲティをマシュマロに突き刺して、タワーを作り始めるグループ。話し合いがなかなか終わらないグループ。いきなり机にスパゲティの束を張り付けるグループと様々だった。タイム・アップが告げられると、みんな席に着いたが、出来上がった作品はそれぞれ独創的で、机に張り付けていたグループは最後に机を横向きにしてスパゲティが上を向くようにしていた。極端なところでは直接スパゲティの束を天井に張り付けてしまい、上から下がっているようなデザインになっている物まであった。話し合いに時間を取り過ぎて、結局タワーはあまり出来上がっていないグループは残念そうにしていた。

イエオ先生はすぐにどのグループが1位かとは言わずに全員に作品を見る時間を与え、それから話し合いが始まった。まず「1位はどのグループだと思うか」「それは何故か」さらに「確かにルールはなかったが、それにしてもこの作り方は不正ではないかと思えるところはないか」等。初め、そのタワーの高さ(長さ)だけで順位を話し合っていたのだが、天井から下げたり、机に張り付けたグループは不正ではないかと言う意見も出始めた。話し合いはそれからが面白くなったのであるが、そこまででも中学生になら楽しくて熱心に話し合う題材となり、面白い活動になるのではないかと考えた。

### 3 学年の先生たちとの話し合い

この「より良い話し合い、またはクラス作りをするための活動」をどのような形態でやるべきか2年生の担任、副担任、6名で話し合った。初め、松村の企画であるので、多目的室などの大きな部屋で、3クラス一緒に行うという意見もあったが、活動の内容から考えて、120人でやるのは難しいということになり、各担任が各クラスで活動を行うことにした。

クラスによって時間配分が違ったり、教員の言う事が違ったりしないように、学年の教員で1時間話し合いを行って、各クラスの活動がなるべく同じになるようにした。また授業案と生徒にやってもらう簡単なプリントを作成した。

### 4 材料について

シンガポールで参観した授業ではスパゲティとマシュマロが使われていたが、今回の活動は中学1年生が対象なので、マシュマロを食べてしまうケースが考えられ、竹ヒゴと紙粘土を使うことにした。

### 5 授業案

この授業の課題を「この材料を使ってなるべく高く、かつ美しいタワーを作る」とする。まずグループでタワーを作り、その後で振り返り、自分自身をあるいは自分のグループを客観的に見るようにする。良い話し合いの方法、意見の言い方について確認し、良いクラス、良い学年を作るために意識すべき事を確認する。

(留意点 グループ全員が意見を言い、他のメンバーがどの意見もきちんと聞くこととす

る。何も言わないで周りの人の決めたことに従うような生徒がいないようにする。)

各グループ、竹ヒゴ30本と紙粘土3分の1パック、紙テープ1つを用意する。

紙粘土は使い方自由。20分の間に作り方を話し合い、時間内に出来るだけ高く美しいタワーを作る。

- 1) 竹ヒゴ、紙粘土、紙テープを各グループに配布する。
- 2) 20分経ったら、作業を止めるように指示する。
- 3) 生徒達に「どこのタワーが一番高くて美しい？」と問いかける。その時、複数の異なった答えがあっても良い。
- 4) 生徒達に「プリントを配布し、(プリントは3つの欄があり、A、B、Cとなっている)『今日はどのようにしたら各班で今までより良い話し合いが出来るか考えます』と告げる。  
『まずグループの話し合いについて振り返ってみましょう。あなたの班はタワーの作り方についてどんな話し合いが出来ましたか。タワー作りの方向性を決めたのは誰で、全員の意見を聞くことが出来ましたか。』  
→各班で5分間話し合う。
- 5) 5分間話し合った後でAの欄に各自話し合ったことを書かせる。
- 6) 次に生徒達に次のような指示をする。  
『次に自分自身について振り返ってみましょう。一人一人がきちんとみんなに意見を言えましたか。他の人の意見をしっかり聞けましたか。タワーを作るのに、みんなが参加出来ましたか。各自で良く考えて自分自身についてBの欄に書きなさい』
- 7) 最後に次のような指示をする。  
『今日の活動を通して、何を感じましたか。クラス運営や授業の受け方と関係しているところ、取り入れると今より上手くいきそうなことがありますか。考えて各自Cの欄に書きなさい』
- 8) プリントを回収し、タワーを片付けるように指導する。

#### 生徒の感想より

1) Aの欄 各グループがどのようにタワー作りを行ったか

○全員ちゃんと意見が言えた。上手くできなかったけど、とても盛り上がって出来た。

○N君がリーダーシップを取っていて、みんなが案を出すことが出来た。

○土台の作り方をまず話し合った。技術の授業で習ったことも取り入れようとした。

結局、あまり高くはならなかったけど、美しくは出来たと思う。

○原案はSさん。みんなで話し合っただけ出来たが、違う話をしてしまうこともあった。

○N君の発案で設計図を作って美しさをとことん求めた。高さは無いが、素晴らしく美しくきれいなタワーが出来た。

○一つの目的に向かって全員積極的に作った。そして皆がリーダーとなって頑張った。

みんなの意見が一致した。だから結束して高いタワーが出来た。

2) B の欄 自分自身はどのように活動に参加したかの振り返り

- 自分は班の人のおかげで色々な意見を出すことが出来、みんなで作業することが出来た。意見が出せたから、素晴らしいと思える作品が出来たと思う。
- タワー作りがスムーズに出来るよう、テープを多く切っておいたりした。班のみんなの意見もちゃんと聞いた。みんなとの共同作業は自分にはない発想が聞けるから面白いと思った。
- いつもは僕は全く意見を言わないが、今回はしっかり意見を言えて良かった。
- 初め、粘土でカブトムシを作って遊んでいたが、途中からちゃんと手伝った。
- 少し強く言ってしまったこともあったが、意見は言えた。他の人の意見も聞いたが全ての意見を聞くことは出来なかった。たくさんの意見があった方が良い方向へ行くことがわかった。人の意見をのがさないで良く聞くことが大事。

3) C の欄 この活動を通してわかったこと、クラス運営や授業と関連していると思ったところ

- 友達とタワーを作るときに、意見を共有して1つの意見にまとめて出来て良かった。色々な意見が出ると、より良い意見になることを学びました。
- タワーは土台がしっかりしないと上は崩れる。つまり、1年生の授業をしっかりと後期課程で評価が下がる。
- 時間配分は大切だが、時間にとられ過ぎてあせっているとかえって上手くいかない。話し合いをすると、色々なアイデアが出てとても良いことが出来る。
- いつもふざけている人も今日は真剣に取り組んだ。授業ではよく関係のない話をする人がいるが、今日のようにやればもっと上手くいくと思う。

## 6 考察

この授業を終えた後、クラスに「今日みんなが頑張って作ったタワーは、実はこのクラスです」と話すと生徒たちは一瞬驚いたような顔をした。頭の中でみんなで作ったタワーとクラス作りがすぐに繋がった生徒とそうでない生徒がいたようだ。それにしても「みんなで意見を言った方が上手くいくし楽しい」と言う事を実感してくれた生徒は多かった。また、予想以上に中学1年生にとっては紙粘土と竹ヒゴという小道具が、気持ちを高揚させるのに大きな役割を果たしたと感じている。「もう一回この活動がやりたい」「次はもっと頑張りたい」という意見も多かった。この活動をしてすぐ翌日から良い話し合いが出来るようになったわけではないが、何か少し意識するようになった生徒はいたと思う。

この活動をした何日か後に、昼休みに何人かの生徒がお菓子を食べたという規則破りがあった。その時、タワー作りの話を使って、「周りの人はどうしていたのか。そこにいて悪いと知っていて何も言わなかった人にも責任の一部があるのではないか」と話したところ、「自分はそういう風に考えたことはなかった。今後は注意するようにしたい」と反省してくれた生徒が複数いた。その時は、タワーの活動をしておいて良かったと強く感じた。

今後も工夫して、また他の先生のなさった効果的な活動を取り入れて、大人でもなかなか難しい「相手の意見をしっかりと聞き、自分の意見もはっきり発言する話し合い」の練習となる活動を行っていきたい。